

SUB



GK 矢田雄基



DF 金正也



DF 安藤謙



MF 濱田宙※



MF 佐藤涼介



FW 三島康平



FW 田中信也

※濱田は市立船橋高出身の新生。左のスペシャリストでU-18代表候補の経歴を持つ。

F
W



那倉 夢人 No. 18
積極的にボールを奪いに行く闘志。ワンダーボーイに注目！



山下真太郎 No. 10
ゴール前の技術は一級品。公式戦初ゴールが待たれる。

M
F



島田 祐輝 No. 11
ドリブルで左サイドを切り裂く。攻撃の中心として期待。



山崎 健太 No. 8
中盤はどこでもこなす。昨年以上に得点に絡んでいきたい。



田村 貴之 No. 9
運動量、スピードはチーム屈指。頑張る姿勢で開幕先発なるか。



市川 祐樹 No. 19
ボランチ起用が濃厚。新たなポジションでスタメン定着を狙う。

D
F



鈴木 寿毅 No. 3
左足のフィードが武器。主将としてチームの精神的支柱。



伊藤 龍 No. 5
今季もDFを統率。新ボランチとの連携を高めたい。



中山 友規 No. 13
抜群の高さで相手FWを封じ込める。新たな駒大の顔となるか。



武田 憲明 No. 2
武器はハードマーク。混戦のポジションを守るか。

G
K



岡 大生 No. 21
長い手足でゴールを死守。昨季の経験を活かしたい。

今季の開幕フォーメーションは4-4-2。昨季途中から用いられ、以後固定され続けているシステムで、『駒大サッカー』という括りの中での各ポジションの役割に大きな変更点はない。

ただ、DFを除いては昨年と大きくメンバーが入れ替わった。

最大の焦点となるのが中盤。個の力で相手攻撃を寸断していた『要塞』ボランチ菊地の抜けた穴は大きい。後継者と目されていた志田も離脱中のため、市川や金といったCBを本職とする選手がこの位置の候補となっている。ダイヤモンド型になるのかボックス型に配置するのかも未定で、当面の間は相手チームや各選手のコンディションに合わせて配置・構成を変更することが予想される。

右サイド・FWも同様の状態であり、昨年以上に毎試合多くの選手がプレーすることが予想される。全ては新チーム発足時に掲げた『全員サッカー』の名のもと、タレント不在の時期だからこそ、多くの選手

One ness We ness I ness ⇒ 全員サッカー

が王座奪還に関わっていく状況となる。

『全員サッカー』を目指す上で、秋田監督は『One ness We ness I ness』という言葉掲げた。One nessとは相手の内的世界を共有しようとする能動的に関わる姿勢のこと。つまり、相手の身になってみるということ。We nessとは、仲間意識を育てるために相手のことをほめるなどしてその存在を認めること。I nessとは自己主張・自己開示をすることによって自分をオープンにして相手とぶつかる勇気を示すこと。お互いのことを考え、認め合い、ぶつかり合える仲間。この3要素は理想的な集団のあり方を示す言葉である。

新チーム始動当初はバラバラだったこのチームも、練習試合で例年になく試行錯誤を重ねていくうちに、少しずつ戦えるチームへと変貌してきた。前途多難な戦いは続くだろうが、このチームは過去のどの世代よりも全員で戦える資格がある。『全員サッカー』の行く先は…?!